

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300195		
法人名	株式会社 トミタ		
事業所名	グループホームにこにこ倶楽部		
所在地	群馬県高崎市吉井町馬庭50		
自己評価作成日	平成23年8月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に利用者様が安らげる場所として生活していただけますよう日々職員一同一丸となって努力している。3ユニットであるため利用者様同志の交流の場も広く、気の合った方々でお茶を飲んだり、歌を唄われたり、一人ひとりに合った対応を心掛けています。利用者様の看取りもご家族様の協力を得て施設での対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は田畑が広がり、地域住宅に隣接して建てられ、散歩時等には地域交流が出来る場所にある。施設長、管理者は理念を基にした介護が提供できるように職員に伝達し、職員は家族のように心を通わせて入居者に関わり、安らかな日々の暮らしを支援している。食事担当職員2名は3ユニットの入居者の希望を取り入れ、献立を作成し、栄養のバランス・個々の体調に合わせ食事を提供している。また、トイレでの排泄時には、立位保持ができる為に、確実にリハビリに取り組みよう練習表を作成し支援するなどしている。看取りのケアについては取り組む姿勢があり、段階に応じて話し合い主治医、訪問看護師、他機関と連携し、家族も交えた見取りのケアに取組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は朝のミーティング時に唱和し各ユニットに掲示して、常に再確認して利用者の方へのサービスとして実践している。	理念は、申し送り・会議等で再確認をしている。職員は、理念にある自分の家族のように心が通い合う関係作りに努力し、入居者が日々安らげる場所になるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑で出来た野菜を頂いたり、地域の行事や会議、道路清掃など地域活動に積極的に参加し、地域の人達に顔を知っていただけるよう日常の挨拶や話しかけを心かけている。	地域の行事や会議、道路清掃等の地域活動に積極的に参加をしている。日々の散歩では、近隣の方と入居者が気軽に挨拶を交わすよう心がけている。ホームは小・中学校の体験学習の受け入れを伝えており、近くの幼稚園から園児の訪問がある等地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者からの相談は随時受け付けており近隣の医療機関の相談員と連絡を取り可能な限りの相談援助は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標に運営推進会議を開催している。内容については参加者の方々の意見交換が主で話し合いの結果は、サービス向上に活かしている。	年6回の運営推進会議開催を目標に取り組み、行事と同日開催が殆どであった。出席する家族の「入居者の日々の食事について知りたい」との意見から、日々の食事風景を体感して頂きたいと考えて、家族招待の食事会を計画する等意見を活かした取り組みを行っている。今後の会議への取組み方法も努力したいと考えている。	運営推進会議は、出席が得られるよう計画し、2ヶ月に1回以上の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、日常の様子を理解していただき相談なども行っている。部屋のあき情報等は使用させていただいている。	市の担当課に、介護認定調査の書類を持参する等出向している。部屋の空き状況報告により入居者の紹介や研修会の案内等情報交換を行い、市との協力関係を築くよう取組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、しない、させないを基本としているが身体の安全面を考慮し転倒等危険性が生じる場合はご家族へ説明し理解を頂き同意書作成の上安全ベルトの着用はしている。必要以外は外している。又、玄関の鍵は、安全性を重視して施錠している	3ユニットのホームのために安全面を優先しての玄関の施錠や転倒の危険性がある入居者へ必要時に安全ベルト着用している。必要な方の家族には説明をして同意書を頂いている。夕刻になると缶コーヒーを買いに行きたい入居者がおり、職員が付き添い出かける支援をしている。	安全面重視のケアへの対応をしつつ抑圧感のない自由な暮らしの支援について全職員で引き続き検討されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議や朝礼時に虐待について学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用している利用者様があり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所見学、申込、入所時にあたり契約の説明を行い十分理解していただけるよう時間をかけて説明し理解を得ている。又、、不安や疑問についてもこちらから尋ね安心していただけるよう確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を、施設管理者の他に、役所の介護保険課にも、苦情受付窓口としても設けている。又、家族の面会時や普段の生活の中でも意見要望を伺い、改善・対応に努めている。	日常の入居者との触れ合いや何気ない会話等の機会を活用して、要望の把握に努めている。意見箱も設置しているが、家族が面会に見えた折に声をかけ本人の生活の様子などを伝えつつ、意見や要望等を聞いている。意見がある場合は主に管理者や施設長が対応し、職員を交えて検討も行い、家族に説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内に意見箱、ノートを設け職員の声が届くように設置している。又、ケア会議には、常に意見交換の場を設けている。	毎月のケア会議において介護方法や物品の購入等の検討がされ、職員の意見や提案が活用されている。職員は、会議や研修報告、申し送り時等の意見が言い易い場があり、また、施設長や管理者に小さなことでも相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を把握して、勤務にたいしては、できるだけ本人の希望をとりいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講の機会や大型医療機関の講習への参加を勧めている。介護福祉士等の資格取得の支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流は実施。医療機関等の勉強会に参加し同業者との交流する機会を作り相互の活動について意見交換等行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報提供していただいた書類を基に、ご家族、関係者の方から収集して、利用者様を理解し安心して生活できるような環境を作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、介護支援専門員との話し合いを行い プロフィール、要望、相談等を聴いてご家族の方が安心してくださるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要とされている事に耳を傾け必要としている支援を提供できるよう支援している。当施設だけに留まらず必要であれば他の施設への移動も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族の一員、人生の先輩として尊敬し、例えば、畑仕事を利用者の方に教えていただきながら共に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設でのイベントにご家族の方にも参加していただき、触れ合う機会を設け、面会もいつでも自由にしています。又、適宜近況報告して、利用者様とご家族の関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連携をとりながら馴染みの人の面会は支援している。ご家族様のお迎えで外出、外泊されている。	家族が迎えに見えて自宅や墓参りに出かけている方、入居前に同じアパートに住む友人の訪問がある方等があり、馴染みの場や人の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を重視し、相性、人間関係を考慮して関わり合いが出来るよう、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も適宜、相談は、受け付けており、最入所も可能である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に情報提供していただいた関係書類と、本人ご家族の方からの要望を聞いて、要望を取り入れたケアプランの作成に努力している。	家族から本人のプロフィールや要望を聞き、日々入居者に寄り添い希望や意向を把握するよう努めている。意思の疎通が困難な方は、各ユニットの会議で検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族へ自社特有のプロフィール表への記入を求め、生活等の把握ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤・夜勤での申し送り、連絡ノート等を等により一日の過ごし方心身状態、有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人やご家族から要望をお聞きし、毎月のケア会議において職員から現状について、またできる事はなにか等検討し介護計画の立案・実践をおこなっている。	本人・家族からの希望及び直接介護に関わる職員からの情報を基に、ケア会議でプランを作成している。現状報告が主になり、本人の要望や自立度変化予測の共有が図れないことがあり、日々変化する入居者の対応に追われて計画目標の話し合いは形式的になりがちである。申し送りやミニ会議で検討するようにしている。	職員それぞれの立場での意見を共有した介護計画を作成され、入居者の自立支援に基づく計画作成とモニタリングの実践に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、個別ファイル、朝礼、ケア会議等で情報の共有を図り介護計画に活かしていると共に介護計画の大切さを職員に伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調の変化などにもご家族に代わって病院への付き添いなど、常日頃から柔軟な支援サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年近隣の幼稚園との交流を行っており、利用者様も毎回楽しみにされ、又、地域の神社のお祭りに声を掛けていただき獅子舞を見せていただくなど暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に協力医療機関の主治医は存在するが、入所時本人、ご家族の希望と要望に合わせた上で、かかりつけ医を決定している。	入居時、本人・家族の希望を伺っている。ホーム協力医の2週間に1回の往診があり、健康相談をしている。その他、歯科医の訪問診療や看護師の日々の健康相談をしている。病院受診の際には、家族の都合により職員が同行を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を雇用しており24時間連絡が取れる体制を作っている。日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師へ連携して医師からの適切な指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病状、治療の様子等の把握に努めご家族や主治医、病院関係者の方と連絡を取り合い早期退院を心かけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、施設側の方針を説明している。重度化した場合や終末期になった時、本人、家族が当施設を希望した場合、かかりつけ医、訪問看護師と連携して対応している。総合病院での緩和ケアチームとの連携を試みている。	入居時に、重度化、終末期の対応方針を説明し、早い段階から本人、家族、主治医等で話し合い方針を共有している。現在、胃ろう増設した方がおり、ケアを実践している。看取りの経験もあり、家族を交えて今後も取り組む姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故に備え緊急連絡の体制を整え、自社雇用看護師からの指導を日頃から受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行なっているが、方々の協力を得て訓練が出来るよう努力する。	年2回の火災訓練を3ユニット合同で行い、避難経路、避難場所、通報の仕方等を利用者と一緒に確認しているが、今年度の開催は見送られている。自主訓練を行ってはいるが、夜間想定避難訓練や近隣宅の協力依頼は行っていない状況である。	人員が手薄となる夜間を想定した火災訓練や近隣宅に災害時の協力を依頼する等して、地域の住民と一緒に災害対策を行えるよう期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活暦等を考慮して、一人ひとり尊重した対応を心かけている。	一人ひとりの尊厳を守ることの大切さを、入職時新人に教育している。抑圧的な言葉は使わず、「さん」を付けて呼んでいる。小窓付ドアには希望を聞いて布等で小窓に目隠しを付ける等をして、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声かけして利用者様の希望等を伺い、レクや散歩などの参加は自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を優先して、一人ひとりのその日の状態に合った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問理容師の方を依頼しています。なかには、かかりつけの美容院へ行かれる方や、髪染めを職員がお手伝いすることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理に関しては、利用者様の状態により不可能であるが、テーブルを拭いていただく、おしぼりを巻く等利用者様が出来る事は職員と一緒にしている。	入居者の希望や昔食べていた物や調理方法を聞き、献立に活かしている。食事担当職員2名が、3ユニット全員の食事を調理し、各ユニットに配り、体調に合わせた食事を提供している。野菜の下拵え、テーブル拭き、お絞り作成等を職員と一緒にを行い、食品から昔話に発展するような声かけもあり楽しい雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、毎回記録に残し、食事形態も一人ひとりの状態に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて、歯磨き、うがい、又、夜は、義歯は洗浄液に浸してそれぞれに合った方法で対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄状況を把握し毎回記録してトイレ誘導をしている。また、トイレでの立位が保てるようリハビリをして自立の支援を行っている。	入居者の排泄記録表やしぐさ等からトイレ誘導をしている。また主治医から意見があり、トイレの立位保持運動の支援に組みをしている。確実にできるよう練習表を作成し、排泄の自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎日10時のおやつとして牛乳をののんでおり、体操、散歩を日課にしている。水分の摂取に力をいれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽が大きい為、現状は、週2回の入浴になっているが、シャワー浴であれば、いつでも対応に応じられる。	週2回の入浴日となっている。楽しめるよう仲良しの二人での入浴や季節の柚子湯等でゆっくりとした入浴を支援している。シャワー浴は何時でも可能であり、入浴しない日、汗や汚染時には清拭やシャワー浴、陰部洗浄等に対応している。拒否する方には入浴無料券を作成して楽しく入浴出来るように工夫を試み支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠パターンを把握し、それぞれに合った対応を心かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬状を保管し常に見直し確認でき、薬の管理、服薬の確認は、最善の注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験を把握し、得意分野で発揮できるよう環境を作り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの要望があれば対応できる状態を作り対応を心かけている。ドライブなども四期折々の花を見に出かけている。	天候を見て、健康に配慮し庭での外気浴、近隣の散歩に出かけている。散歩の途中に、風景をスケッチする方もいる。自宅を見に行きたいと外出したり、花見の季節には家族の協力もありドライブに出かける等支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でのお金の所持は問題が多いため控えていただいておりますが、買い物に出かけた際は、本人に管理していただき使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の確認の上、利用者様の希望通りに電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。郵便局までの散歩も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から廊下には、思い出の写真を貼り、ロビーは天窓から光が入り、その天窓が開き換気ができるようになっている。利用者様が作られた作品等ロビーに飾っている。	玄関先には、季節の花が植えてあるプランターが置かれている。各ユニットのホールに天窓があり、広い空間の演出設計となっており、畳のスペースでは入居者がテレビを見たり、ソファでは入居者の談笑する姿がある。廊下には季節行事の写真や入居者の塗り絵、風景画が貼られている。入居者が居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを設置して、外を眺めながら気のあった利用者様同士で過ごされたり、ロビーの座敷で新聞を読まれたり、テレビを観たりされ、思い思いの居場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前自宅で使用していた家具や、テレビ等居室に搬入して頂き、居心地良く生活できるようご家族の方と相談して搬入していただいている。	居室には筆筒、仏壇、時計等の自宅で使い慣れた家具を持ち込み生活できるよう支援している。趣味で机を作ったり、草花を飾られたり、本人が描いたグループホーム周囲の風景画や家族の写真が壁に掛けられたりしている。居室からは庭先の季節の移り変わりが眺められ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケア会議等で話し合い、「できること」「わかること」を職員全体で把握し、自立した生活が送れるよう一人ひとりの方を理解して対応している。		